

# 被災経験活かし国際協力を

## 高速は整備途上、国際競争懸念

議員 足立

足立敏之参議院議員は6日、参院国土交通委員会で、昨年9月にインドネシア中部・スラウェシ島で発生した地震等の災害と日本のインフラの整備水準について質問した。

足立議員は今年1月、現地調査でスラウェシ島を訪問。液状化により地盤が大規模流動した被害が、地震以上に大きかったこと、その現地では、復興のために日本人技術者が献身的に活躍していたことを伝えた上で、「日本の大規模災害の経験を活かして、災害で被災した国を支援していくこと

が、国際協力の観点からも重要だ」と指摘。

石井啓一国土交通大臣に対し、スラウェシ島の災害復旧に、これからも国交省はどのように支援していくのか決意を問うとともに、今後同様の災害が発生した場合の対応についても質問した。

これに石井大臣は、「今後とも1日も早い、現地の復旧・復興と防災力向上のための協力を全力で行う」と回答した。

また今後、海外で大規模災害が発生した場合、「災害時の協力を円滑に進めるためには、日頃か



ら防災担当当局との関係を構築し、信頼感を醸成しておくことが非常に重要」と指摘。平時から支援を行う専門家の派遣、防災に関する課題と解決方法について意見交換する防災協同対話の実施、防災インフラの海外展開等を通じた災害に強

い社会の構築に貢献していく考えを示した。

一方、日本のインフラの整備水準について足立議員は、海外のインフラ整備の水準を引き合いに出して、「日本のインフラの整備水準は、世界水準から見ると二流、三流の水準に落ち込んでしまっている」と指摘。「日本はまた、高速道路が整備途上だ」と述べ、このままでは「国際競争に負けてしまう」と懸念を示した。

このため足立議員が、欧米諸国と比較して一流の域にあるか問うたところ、石井大臣は、例えば開通済み高速道路のうち、暫定2車線区間の割合はドイツ0.7%、フランス6%に対し、「日本では約4割。国際的にも稀な状

況となっており、安全性や走行性に加え、大規模災害時の復旧等に課題がある」と述べた。

このため、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策を通して、土砂災害等の危険性の高い箇所での4車線化を進め、安全・安心の確保や地域経済を活性化させるためにも、引き続きミッシングリンクや暫定2車線の解消を進める考えを示した。